

琉球大学学術リポジトリ

管理局第一課「南洋群島ヤップ島ニ於ケル人口減少問題」

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2018-04-16 キーワード (Ja): 矢内原忠雄 キーワード (En): Yanaihara Tadao 作成者: 矢内原, 忠雄 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/38083

S T A R T

REEL No. A-002

琉球大学

矢内原忠雄文庫

史料名

管理局第一課「南洋群島ヤップ島ニ於ケル人口減少問題」昭和七年一月

封筒番号

173

原文所所蔵者

琉球大学附属図書館

撮影年月日

平成 17 年 11 月 10 日

撮 影 者

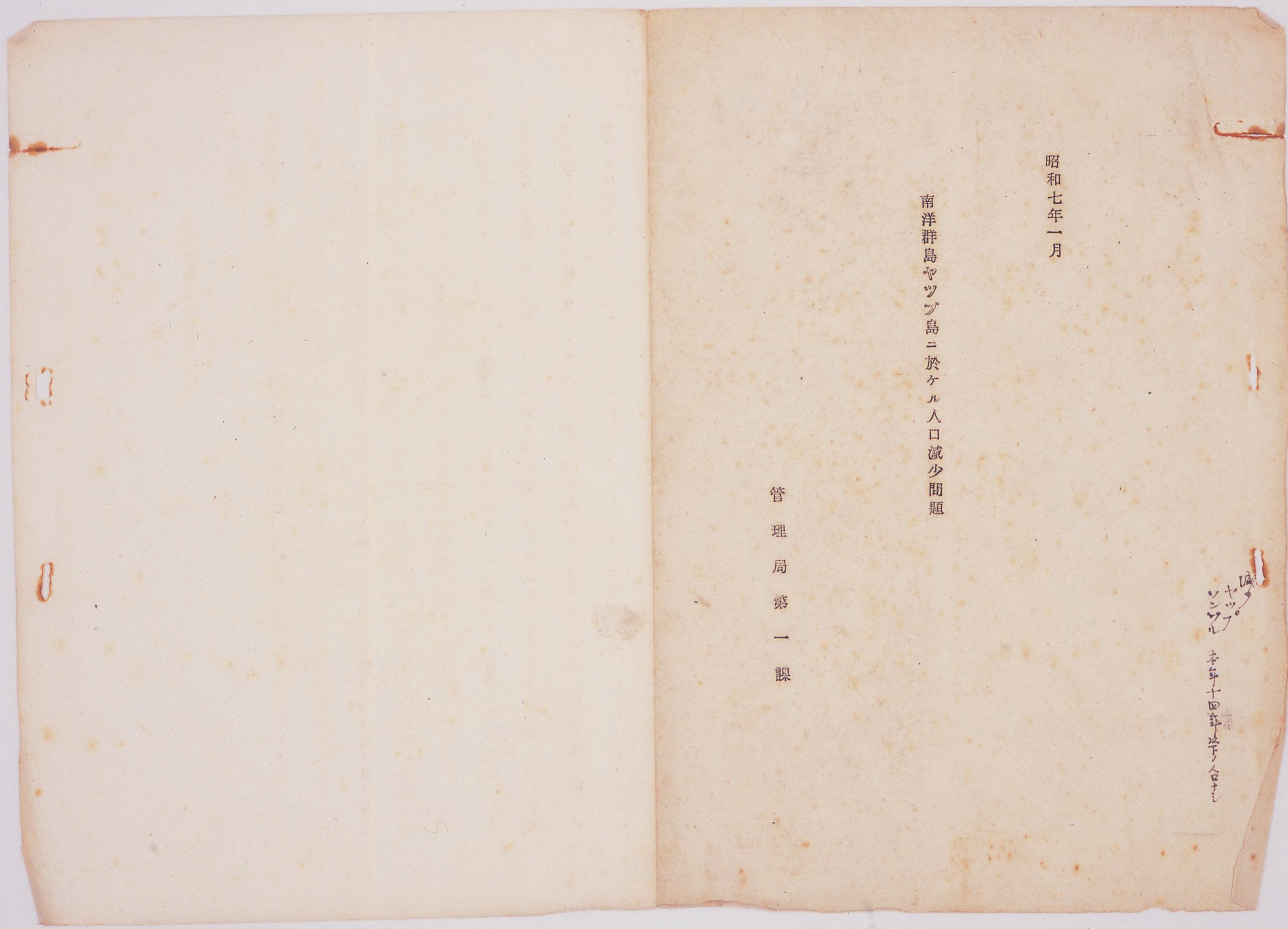
富士写真フイルム 株式会社

備 考

矢内原忠雄文庫

封筒番号： 173

史料名	管理局第一課「南洋群島ヤップ島ニ於ケル人口減少問題」昭和七年一月
資料形態	ガリ／1冊
枚 数	15
頁 数	30
縦 (cm)	
横 (cm)	
厚さ (cm)	
書誌的事項	南洋 矢内原の書き込み箇所あり 今泉分類記号： N



昭和七年一月

南洋群島ヤツブ島ニ於ケル人口減少問題

管理局 第一課

南洋群島ヤツブ島
昭和十四年三月
ヤツブ島人口減少問題



1/12



南洋群島々民人口問題

一、總 說

昭和五年十月一日現在ニ於ケル南洋群島々民人口ハ四万九千六百九十五人ニシテ其ノ大部分ハ「カナカ」族ナリ「チャモロ」族ハ僅ニ三千三百一人ニシテ島民人口總數ノ約六「パーセント」ニ過キサザル狀態ナリ而シテ「チャモロ」族ハサイバン支廳管内ニ最も多ク其ノ數二千八百四十六人ニシテ他ハヤツブ、バラオ、トラツク、ボナベ各支廳管内ニ僅カニ現住スルニ過ギス「カナカ」族ハトラツク支廳管内ニ最も多ク其ノ數一万五千百九十一人ニシテ最も少ナキハサイバン支廳管内ノ九百八十三人ナリ之等島民ノ最近十ケ年間ニ於ケル人口動態ヲ觀察スルニ「チャモロ」族ノ出生率ハ其ノ死亡率ヨリモ遙ニ高ク著シク人口増加ノ趨勢ニアルモ之ニ反シ「カナカ」族ノ出生率ハ島ニ依リ異ルモ概シテ死亡率殆ト相半スル狀態ナリト雖モ群島總數ヨリ概觀スルトキハ僅カニ増加ノ傾向ニアリ而シテ群島中

人口減少ノ著シキハ「ヤツブ」島及バラオ支廳管内ノ「ソンソル」島ナリ

現住人口

昭和十九年十月一日現在

種別	邦人		島民		合計	外国人		合計
	男	女	男	女		男	女	
昭和十九年	九,五三七	六,一一九	四,五五	一,三九	一五,四七	七	一	八
昭和十八年	九,五三七	六,一一九	四,五五	一,三九	一五,四七	七	一	八
昭和十七年	九,五三七	六,一一九	四,五五	一,三九	一五,四七	七	一	八
昭和十六年	九,五三七	六,一一九	四,五五	一,三九	一五,四七	七	一	八
昭和十五年	九,五三七	六,一一九	四,五五	一,三九	一五,四七	七	一	八
昭和十四年	九,五三七	六,一一九	四,五五	一,三九	一五,四七	七	一	八
昭和十三年	九,五三七	六,一一九	四,五五	一,三九	一五,四七	七	一	八
昭和十二年	九,五三七	六,一一九	四,五五	一,三九	一五,四七	七	一	八
昭和十一年	九,五三七	六,一一九	四,五五	一,三九	一五,四七	七	一	八
昭和十年	九,五三七	六,一一九	四,五五	一,三九	一五,四七	七	一	八
昭和九年	九,五三七	六,一一九	四,五五	一,三九	一五,四七	七	一	八
昭和八年	九,五三七	六,一一九	四,五五	一,三九	一五,四七	七	一	八
昭和七年	九,五三七	六,一一九	四,五五	一,三九	一五,四七	七	一	八
昭和六年	九,五三七	六,一一九	四,五五	一,三九	一五,四七	七	一	八
昭和五年	九,五三七	六,一一九	四,五五	一,三九	一五,四七	七	一	八
昭和四年	九,五三七	六,一一九	四,五五	一,三九	一五,四七	七	一	八
昭和三年	九,五三七	六,一一九	四,五五	一,三九	一五,四七	七	一	八
昭和二年	九,五三七	六,一一九	四,五五	一,三九	一五,四七	七	一	八
昭和元年	九,五三七	六,一一九	四,五五	一,三九	一五,四七	七	一	八

種別	合計	男	女
昭和十九年	一,一〇	一,一〇	一,一〇
昭和十八年	一,一〇	一,一〇	一,一〇
昭和十七年	一,一〇	一,一〇	一,一〇
昭和十六年	一,一〇	一,一〇	一,一〇
昭和十五年	一,一〇	一,一〇	一,一〇
昭和十四年	一,一〇	一,一〇	一,一〇
昭和十三年	一,一〇	一,一〇	一,一〇
昭和十二年	一,一〇	一,一〇	一,一〇
昭和十一年	一,一〇	一,一〇	一,一〇
昭和十年	一,一〇	一,一〇	一,一〇
昭和九年	一,一〇	一,一〇	一,一〇
昭和八年	一,一〇	一,一〇	一,一〇
昭和七年	一,一〇	一,一〇	一,一〇
昭和六年	一,一〇	一,一〇	一,一〇
昭和五年	一,一〇	一,一〇	一,一〇
昭和四年	一,一〇	一,一〇	一,一〇
昭和三年	一,一〇	一,一〇	一,一〇
昭和二年	一,一〇	一,一〇	一,一〇
昭和元年	一,一〇	一,一〇	一,一〇

ニヤツプ島「カナカ」族ノ減少

イ、趨勢

ヤツプ島「カナカ」族島民減少ノ傾向アルハ獨領當時ヨリ之ヲ認メ其ノ原因ニ關シ調査ノ跡ナキニアラサルモ文獻明ナラス最近島民古老ノ言ヲ綜合スルニ獨領當時ハ出生ト死亡相半シタルカ日本ノ統治トナリテ以來死亡急激ニ増加シ出生又減シツツアリト其ノ眞否速斷シ難キモ相當考慮ニ値スル言タルヲ失ハス我軍政時代ノ當局モ尙減少ノ事實ヲ憂ヒタルカ如キモ未タ以テ具體的調査ノ事績ナク唯憂ヲ抱クノミニテ荏苒今日ニ及ヘリス

クテハ委任統治ノ根本精神ニ背馳スルノミナラズ産業ノ進展經濟ノ發達ニ影響スル所尠少ナラサルヲ以テ之カ對策ヲ攻究施設スルハ刻下ノ急務ニ屬スルモノト認メ南洋廳ハ設置以來之カ原因ヲ調査シツツアリト雖モ衛生思想ノ普及ヲ圖ル必要アルニ依リ昭和七年度豫算中ニヤツプ島々民減少防止施設ニ要スル經費トシテ三千三百四十圓ヲ計上シタリ

款	項 目	金額	摘要
	經常部		
衛生費	第一款南洋廳	三、三四〇	
	衛生費	三、三四〇	
	保健衛生費	三、三四〇	
			衛生講習費 八四〇 活動寫眞費二、五〇〇

ヤツプ本島ハヤツプ、トミル、マツプ、ルモン、ノ四島ヨリ成リ海ヲ隔ツルモ近ク殆ド一島ト異ラズ從ツテ人口ノ動態調査容易ナルモ東西離島ハ交通ノ便惡シク「カナカ」ニテ各自輕々移動ノ弊アリ人口ノ調査不完全ナルヲ免レサルモ最近九ヶ年間ニ於ケル統計ヲ以テ減少ノ趨勢ヲ示セハ左ノ如シ

今ヤツブ本島ト他支廳管内ノ狀況トヲ比較セハ左ノ如シ

人口百人ニ對スル出生死亡割合

支廳別	カナカ族		チヤモロ族	
	出生	死亡	出生	死亡
バラオ	三、三七	二、一七	一、五〇	二、〇三
サイバン	三、二七	二、七二	三、七七	二、一ニ
トラツク	二、六七	二、二二	一	一
ボナベ	一、五六	一、六九	一	一
ヤルート	一、一九	一、三四	一	一
ヤツブ本島	一、三〇	四、二〇	三、五五	一、五五
ヤツブ離島	一、五五	一、七〇	一	一

今ヤツブ本島ト文明國トノ狀況トヲ比較セハ左ノ如シ

國別	出生	死亡
日本	三、四四	二、三二
伊太利	三、二三	二、〇五
佛蘭西	一、九五	一、八九
獨逸	三、〇三	一、六九
白耳義	二、四一	一、七二
露西亞	四、五四	二、八七
ヤツブ本島	一、三〇	四、二〇
カナカ	一、三〇	四、二〇

ロ、原因

以上ノ狀勢ヨリヤツブ島土着民減少ノ原因ヲ考究スルニ文化低級ナル未開人カ文化ノ程度高キ文明人ト相接スルトキハ壓倒セラレ衰滅スルノ例ハ北海道ノ「アイヌ」族及「シベリヤ」ノ「ツングス」族衰滅ノ現實ニ觀ルモ明カナルノミナラス濠洲南東ニ位スル「

タスマニヤ」島ノ土人ガ英國人ノ渡來ニ依リテ皆無トナリ西印度諸島ノ「ハイチー」島百萬ニ垂ムトスル土人カ西班牙ノ殖民ニ依リ約五十年ノ後僅ニ五、六百人内外ヲ留ムルニ過ギサリシト云フ殖民研究者ノ調査記錄ニ徵スルモ其ノ事例甚タ多シ斯ノ如ク減少ヲ示スニ至ル所以ノモノ必スシモ自然的影響ノ結果トノミハ云ヒ難ク酷薄殘忍ナル人爲的撲滅ノ手段ニ基ク減少ヲモ含ムトハ云ヘ適者生存ノ原則上ヨリシテ優劣民族ガ接觸スルトキ劣等人種漸減スルハ自然ノ勢トシテ免レサルハ明ナル事實ナリ之劣等未開人ハ人智極メテ幼稚ニシテ精神の方面ハ素ヨリ形式方面ノ改善進歩遅々タルニ反シ文明ノ侵入速ニシテ文明人ノ往來ト船舶ノ出入トハ未タ體驗セサル惡疫ノ移入トナリ不衛生の狀態ノ域ヲ脱セサル爲メ疾病ノ流行蔓延トナリ體質疾病ニ對スル抵抗力薄弱加フルニ治療豫防ノ途ヲ知ラサル等ノ結果ハ死亡者ノ激増ヲ見又花柳病ハ文明人ヨリ土着民ヘ轉々蔓延シ別ニ治療ヲモ加ヘス遂ニハ不妊ノ原因トナリ出産ヲ減シ斯クシテ劣等種族ノ衰滅ヲ來

タシ唯々文化ノ進展ニ順應生活シ得ル程度ノ土着民殘留スルニ至ルニアラサルカ

ヤップ本島ニテモ大正十四年十月流行性感冒大流行シ人種ノ如何ヲ問ハズ其罹病者數百人ニ及ヒタルガ邦人、外人、「チヤモロ」族ハ一名ノ重症患者スヲ出ササリシニ「カナカ」族中ニハ百四十餘人ノ死亡者ヲ算シタリ惡性ノ他ノ疾病ナリシトセハ或ハ大部分死亡シタルヤモ計ラレサリキ彼ノ英領ノ「フイジ」島ノ土人ガ麻疹流行ノ結果滅亡ニ近ク死亡シ南アフリカノ或地方ニ天然痘流行シ地方土民ノ絶滅ヲ嚮タリト云フカ如キ實例ニ徵スルモ土着民ノ家庭の社會的發達ト文明ノ移入發達ノ程度トカ反比例スルヲ主タル原因トシテ劣等人種漸減シ遂ニ滅亡スルニアラサルカ

南洋群島ニ於テモ前記支離別ノ出生死亡ノ狀態ニ鑑ミルトキハ往古早ク白人ノ最モ往來繁多ナリシヤップ本島ハ人口ノ減少甚シクヤルト、ボナベ又漸減ノ狀態ニアリヤップ支離管内ニ於テモ白人ノ接觸少カリシ離島ハ減少ノ程度少シ又バラオ、サイバン、トラ

ツク共ニ「カナカ」族ハヤツブ島ノ夫レト生活狀況大同小異ナルモ往昔白人ノ往復少カリシ關係上死亡率低シト見ルモ白人ノ渡來ガ今日率ヲ高メタル例證トスルニ足ラム

以上ノ見地ヨリヤツブ島「カナカ」族減少ノ原因ヲ推斷スルニ他ニ眞想發見シ難キ今日皮想的ノ感ナキニアラサルモヤツブ島發見以來西班牙、獨逸人等ノ白人及支那人、和蘭人等外人渡來ノ爲メ花柳病特ニ淋疾ノ蔓延トナリ遂ニ今日出生減少ノ一大原因ト爲リタル外他面島民ノ嘗テ經驗セサル各種ノ疾病例ヘハ肺病、赤痢、「チフス」ノ如キ移入シタルモ島民ノ衛生思想發達セズ島民ノ生活カ所謂文明ノ發達ニ伴ハサル結果死亡率ノ増加トナリ遂ニ人口減少ヲ見ルニ至レリト認メラル

今ヤツブ島「カナカ」族ノ居常ヲ觀察シ人口減少ノ原因ト見ラルヘキ事項ヲ掲記スレハ次ノ如シ

一、淋疾ノ蔓延

本病ハ西領前迄ハヤツブ島ニナカリシト古老ノ間ニ傳ヘラルルモ其ノ移入ノ起源明カナラス島民間ニテハモログエゾ或ハドマルト呼ハレ(症狀同一ニ付推定ス)女子之ニ罹病スルトキハ妊娠セス尙多數ノ男ニ接スルトキハ本病ニ冒サルト自覺シ居ル婦人モ稀ニアリト云フ果シテ全島ニ蔓延シツツアリヤ否ヤハ醫療ヲ懇厭ム今日確言シ難キモ妊婦ヲ見ルコト稀ナル本島ノ狀況ヨリセハ殆ト之ニ侵サレサルモノナキカ如シ(殊ニ本島カナカ族中ニハ避妊若ハ墮胎ノ風習少シ)

二、性交ノ異常

異性間ノ性交ハ享樂的ニシテ時々夜ヲ徹シテ續行亂交スル惡習アリ爲ニ生殖器關障害ヲ來シ不妊ノ因トナルニアラサルカ殊ニ島民ハ妊娠ヲ神術ナリト思考シ古老ノ間ニハ性交ノ結果ト考フル者スラナキト云フ

三、小兒異性間ノ惡戯

十歳位ヨリ十五、六歳位迄ノ間ニハ「ゴスゴス」ト稱シ遊戯的接觸ヲナス惡習多シ「ゴスゴス」ハ子供ノ遊戯ノ謂ニシテ兩親間ニ性交ト看做サレス別ニ羞恥ノ行爲ニアラス白晝山林中ニ亂行セラルト之等ハ前記ト同様生殖器關ノ障害ヲ來シ不妊ノ原因トナルモノノ如シ尙島民間ニテハ女子ノ外出ハ六、七歳位迄ハ負傷等ヲ憂ヘテ兩親干涉スルモ十才以上ノ者ニ對シテハ外出ヲ干涉シ得サル等ノ慣習アリ

四、婦人ノ水浴

婦人ハ慣習上泥濘腰ヲ沒スル芋田ハ勿論除草其ノ他農耕ノ業ハ婦人ノ作業ナルヲ以テ毎日數回水浴スルノ慣習アリ妊娠ニ影響スル所大ナルカ如シ

五、迷信

イ、島外ニ旅スル^行ト決定シタル夜ヨリ其ノ期間ノ長短ヲ論セス歸島後五十日間百日間妻女ニ

接セサル慣習アリ

ロ、出生後ハ其ノ小兒歩行スルニ至ル迄妻ニ接スルコトヲ得ス

ハ、飛魚採リニ選ハレタル男ハ「オールメンハウス」ニ起臥シ四ヶ月以上妻ニ接セス

ニ、公共的の事業ニ従事スル時若ハ家屋ノ改築、新築、修繕等其ノ工事ノ完結スル迄ハ期間ノ長短ニ係ハラス妻女ニ接セス

ホ、妊娠中ニ於ケル不衛生及婦人勞働過度ハ流産ノ原因トナルニアラサルカ

ヘ、風ノ方向ニヨリ妻女ニ接セサルコトモアリ

死亡ニ影響アル事項

一、往時島民ノ体験セサル各種疾病侵入シタルコト

ニ、体験シタルコトナキ疾病ニ對スル治療方法ヲ知ラサル外一般島民醫療ヲ厭ム

三、不潔ヲ意トセサル爲罹病率高シ殊ニ飲料水ハ泥水ニテモ平氣ニテ飲ム爲ニ赤痢、「チフ

ス」等不智不識ノ間ニ傳染スルニアラサルカ

四、家屋ノ構造陰濕ナル爲空氣、日光ノ流通惡シク病患者ヲ増加ス

五、往時飲酒ヲ默許シタルトキハ其ノ資ヲ得シ爲勞働ヲ爲シタルモ飲酒ヲ禁セラレタル以來

勞働ヲ厭ミ終日家屋内ニ起臥スルニ至リ漸次體質虛弱トナリ早老シ疾病ニ對スル抵抗力

減スルカ如シ

六、植物性ノ食物ヲ攝取スルコト多キ爲營養ノ不良ヲ來シ疾病ニ對スル抵抗力薄弱ナルカ如

シ

七、發熱前惡寒ヲ覺ユル時ハ焚火スルカ病者ノ前後ニ共寢シ(熱發後ハ海水中ニ浸タル等其ノ

養生方法ヲ知ラス爲ニ輕症者モ不幸ノ轉歸ヲ取ルニアラサルカ

八、疾病其ノ他人事ノ異變ハ多ク神術ナリトシ人爲的ニ防護豫防ノ途ヲ知ラス

九、傳染ノ系統等ヲ知ラス(凡テ神術ト思フ)

對策、島民ノ生活未タ未開ノ時代ヲ脱セス單純幼稚ニシテ文化的智識ナキ者ナルヲ以テ
教育宗教ノ力ニ依リ眞ニ生存ノ意義ヲ感得セシメ文明社會ニ順應シ生活シ得ヘキ方途ヲ
授ケ島民ノ思想及智識ノ進歩發達ヲ期スルコトハ根本ノ方策トシテ必要ナルハ勿論ナル
モ本島ノ現狀ニ徴スル時ハ教育宗教ノ力ニミ依據セムトスルモ効果尙遠遠ニ望マサル
ヘカラス斯クテハヤツブ本島島民減少ノ救済方法トシテハ迂遠ノ嫌ナキニアラサルヲ以
テ特ニ本島「カナカ」族ニ對シ聲ヲ大ニシ特殊ノ費目ヲ設ケ醫院當局ト協力衛生思想ノ
普及向上ニ専心力ムル外他面醫學的ノ見地ヨリ人口減少ノ因由ヲ調査研究シ對策ノ完成
ヲ計ルハ刻下ノ急務ナリトス素ヨリ前記記載ノ推定原因タルヤ單ニ島民ノ慣習、居常ヨ
リ考察シタルコトニシテ正確ヲ期シ難キモ右ニ依リ應急ノ策トシテ効果速カナリト思意
スル事項ヲ記載セハ次ノ如シ

一、生産ニ影響アルコト

イ、壯年男女ノ健康診断

各管區ヨリ相當數ノ男女ニ付醫員タル技手ヲシテ尿ノ検査若ハ必要ニ應シ身体各部ノ検査ヲ強制的ニ施行シ淋疾又ハ其ノ他ノ疾病ノ有無ヲ檢シ不妊ノ原因調査ニカムルコト

ロ、妊婦ノ調査

總村長ト聯絡ヲ取り各管區内ノ妊婦ノ調査ヲ爲シ機會アル毎ニ妊娠中及出産ニ關スル衛生上注意スヘキコトヲ指示スル外流産、墮胎等ノ調査資料ニ供ス

ハ、性交其ノ他舊慣ノ調査

生産ニ最も關係深キ島民間ノ性交及舊慣ノ調査ヲナサシム（醫員若ハ産婆等適任ナラムカ）

ニ、講習講話

島民間ニハ講習講話ノ如キ精神的ニ涉ルコトハ尙早ノ感アルモ從來ノ体験ニ依レハ繪畫、統計表等ヲ用ヒタル^モハ相當効果アリタル様認メラルニ付各種ノ模型、圖畫等ヲ備ヘ置キ衛生講話ヲ頻繁ニ行ヒ他面迷信打破ノ一助トセシム（其ノ他島民ニ適切ナル繪畫ヲ特製シ宣傳用トシテ各戸ニ頒布ス）

三、死亡ニ影響アルコト

イ、死因調査

島民ノ大部分ハ醫療ヲ受ケスシテ死亡スル者多ク死因確實ナラス墓地埋葬取締規則ノ發布ト共ニ死因調査ヲナスコトトナリ死因又ハ死産ヲ證明スヘキ書類ナキ時ハ或ル地域ニ限り檢案ヲ爲サシムルコトニテリ居ルニ付醫員ヲ増員シ技手タル醫員ハ専心生産、死亡等ニ關スル調査研究ヲ行フコトトナレハ調査上便利ナラム

ロ、寢具（主トシテ毛布）購入奨励

島民ハ發熱惡寒ヲ覺ユル時ハ焚火ヲナシ發熱後暑苦シケレハ海水中ニ浸タル等全ク養生ノ方法ヲ知ラス爲ニ輕症ノモノモ重症ニ惡變スルモノ少カラサルノミナラス惡寒ヲ覺ユル者ニハ親族知己其ノ病者前後ニ數人臥床シテ保温セシムル等ノ慣習アルヲ以テ寢具ノ購入ヲ奨励セムトス唯當分ニ限り相當官ヨリ補助金ヲ與フルヲ可ト認ム

ハ、住宅ノ改善

陰濕ニシテ通風惡シキ從來ノ家屋ハ當然改造セシムルノ要アリ（現ニ實行中）

ニ、巡回治療

現在ヤツブ醫院ニ於ケル巡回治療ノ狀況ヨリセハ効果極メテ少キカ如シ相當改善ノ上其ノ回数ヲ多カラシメ時々巡回ノ場所ヲ變更スルヲ民情ニ通スルモノト認ム

ホ、看護方法ノ普及

島民間ノ病者ノ取扱全ク原始的ナルヲ脱セス婦女子ヲ時々醫院若ハ支廳等或ハ部落ニ集メ病患者ノ取扱等ニ關スル智識ノ普及ヲ爲サシムルノ必要アリ

ヘ、看護夫ノ養成

島民一般ニ醫療ノ效果ヲ常ニ目撃セシメ且簡易ナル處置方法病者ノ取扱方法ヲ知了セシムル爲公學校卒業ノ男女子ヲ一ケ年間位醫院ニ委託講習生トシテ（食費位ハ官ヨリ補給シ）實地ニ見習ハシムルハ効果顯著ナルカ如シ

ト、幻燈器械ノ購入

活動寫真器械ナレハ更ニ適當ナルモ光力ノ關係其ノ他設備ノ關係上如何ナル場所ニテモ影寫可能攜帶便利ナル幻燈器械ヲ購入シ講習講話等ノ際持參シ智識ノ向上ヲ計ルノ要アリ（繪畫ハ島民ニ適應セル圖案ヲ選定特製スルヲ可トス）

チ、各村落ニ於ケル講習講話ヲ特ニ頻繁ニシ醫療、服藥ノ保健上緊要ナルコトヲ説示力

